

SBIインシュアランスグループ株式会社
2025年3月期第2四半期決算説明の要旨
(2024年11月12日)

関連資料

1. 2025年3月期第2四半期決算説明会（機関投資家・アナリスト向け）（動画）
2. 2025年3月期第2四半期決算説明資料（プレゼンテーション資料）

掲載先 URL : <https://www.sbiig.co.jp/ir/irvideos/index.html>

当社社長が行いました上記ご説明の要旨を以下に記載いたしました。必要に応じてご参照くださいますようお願いいたします。

(前略)

<連結業績>

- ・先程（11月12日15時30分）公表した25年3月期第2四半期決算についてご説明します。
- ・当第2四半期累計期間（当中間期）は、経常収益が573億6千2百万円。経常利益が48億6千7百万円、親会社株主に帰属する中間純利益が16億2千6百万円でした。
- ・保有契約件数の増加が主な要因となり、経常収益は前年同期比9.2%の増加。上期の経常収益としては、過去最高金額でした。
- ・第1四半期決算でもご説明しましたが、前年度は、上期に生命保険事業で一過性の収益として、責任準備金の戻入額が計上されて経常利益と純利益が共に実力より大きくなっていましたので、前年同期との比較では経常利益が0.3%の増加、純利益が2.5%の減少でした。
- ・当年度は、第2四半期まで概ね当初の予定どおりに推移しています。当年度は下期の利益構成比

が大きくなると見込んでおり、通期では今年5月に公表した連結業績予想のとおり、経常利益が12.9%の増加、純利益が24.1%の増加を見込んでいます。

- ・（プレゼンテーション資料P.5）当年度までの5年度の各第2四半期累計期間の経常収益の推移です。保有契約件数の増加によって収入保険料が増加して、経常収益も増加しています。営業開始から現在まで一貫して増収です。
- ・（プレゼンテーション資料 P.6）保有契約件数の増加状況は資料のとおりです。24年9月末は、3事業合計で291万件。前年同月末比8.2%の増加でした。
- ・（プレゼンテーション資料 P.7）収入保険料の増加状況は資料のとおりです。当第2四半期累計期間は、3事業合計で528億3千9百万円。前年同期比11.9%の増加でした。
- ・経常利益の推移ですが、当第2四半期の増加率が、一過性要因の影響を受けて0.3%と小さくなっていますが、第2四半期までの業績が概ね当初予定どおりに推移しており、当年度通期は、これまでの過去最高であった前年度通期を12.9%上回る増益の予想としています。中間純利益も同様で当第2四半期の増加率がマイナスですが、こちらも通期では、過去最高であった前年度通期を24.1%上回る増益の予想としています。
- ・当年度通期の業績予想値に変更はありません。各項目ともに、当社の過去最高であった前年度を上回る予想値を据え置いています。経常利益は、当年度は下期に大幅な増益となる予定で、通期では前年度を10億円以上上回る着地を見込んでいます。純利益は、前年度は下期が赤字でしたが、当年度は下期が黒字の予定です。通期では前年度を3億5千万円ほど上回る着地を見込んでいます。

<セグメントごとの経営成績>

- ・経常収益は、3事業共に増加しました。生保事業の増加が12.9%と最も大きく、損保事業、少短事業がこれに続く結果でした。経常収益の構成比は、生保事業が1.2ポイント上昇、少短事業が1.2ポイント低下、損保事業は変わらずでした。
- ・セグメント利益は、生保事業が、第1四半期より改善していますが、前年同期は医療保険の一部で実施した再保険の出再比率変更等による責任準備金の戻入が一過性の収益として認識されて、

利益が大きくなっていますので、前年同期との比較では 43.2%の減少です。ただし、当年度通期のセグメント利益は、生保事業も前年度と同水準以上の金額で着地すると見込んでいます。

- ・セグメント利益の構成比は、引き続き、損保事業が最も高く、全体の 73.4%でした。

<損害保険事業>

- ・保有契約件数は、前年同月末比 5.3%の増加。このうち、がん保険は、9.7%の増加でした。
- ・元受正味保険料は、保有契約件数の堅調な増加などにより、前年同月末比 9.7%の増加でした。
- ・経常収益は、保険料の増収により、9.4%の増加でした。
- ・セグメント利益は、雹（ひょう）災による自動車保険の保険金支払いが発生しましたが、増収効果などにより、12.6%の増加でした。

<生命保険事業>

- ・保有契約件数は、30.3%の増加でした。このうち、団信は、42.0%の大幅な増加でした。
- ・保険料収入は、保有契約件数の順調な増加により、22.7%の増加でした。
- ・経常収益は、12.9%の増加でした。
- ・セグメント利益は、過年度の一過性要因の影響により、前年同期比では 2 億 6 千 1 百万円減少していますが、一過性要因の影響を除く保険収支は、前年同期比で 6 億 7 百万円の増加でした。これに加えて、運用収支も 4 億 8 千 6 百万円の増加でした。
- ・SBI 生命は団信が特に好調で、団信の保有契約高は、2023 年 3 月末から 1 年半でおおよそ 1.5 倍に増加しています。

<少額短期保険事業>

- ・保有契約件数は、2.2%の増加。このうち、ペット保険は、7.9%の増加でした。
- ・保険料収入は、5.5%の増加。経常収益は、4.8%の増加でした。
- ・セグメント利益は、増収効果などにより、87.6%の増加でした。

<事業トピックス>

- ・主なニュースリリースの一覧から、いくつかの話題をご紹介します。
- ・SBI 損保は、株式会社 IDOM（いどむ）と提携して、IDOM の修理工場で修理する自動車の修

理内容や修理の進捗状況をお客さまご自身が確認できる钣金工程管理システムを導入いたしました。これにより、お客さまは、修理の内容や修理の進捗状況をスマートフォンなどからご自身で確認できますので、より安心してお車の修理を受けていただけます。SBI損保も同様の内容を確認できるため、スムーズなお客さま対応や修理内容のより適切な判断が可能となりました。

- ・ご案内のとおり、SBI生命は、本年3月より団体信用介護保障保険（介護団信）をSBI新生銀行の住宅ローン利用者向けに提供しています。介護団信に新規にご加入の方だけでなく、既にご加入中の方も含めて、引受保険会社がSBI生命に変わりました。当社グループは、このようなSBIグループ内の協業をより一層強化します。
- ・少短事業では、今後のさらなる発展に向けて事業再編の準備を行っています。監督当局への正式な申請前の段階ですが、法令に基づいた所定の手続きを進めており、SBIいきいき少短とSBIリスタ少短のペット保険をSBIペット少短へ承継させる予定です。これに加え、SBIいきいき少短の地震補償保険をSBIリスタ少短へ承継させる予定です。順次、対応を進めており、ペット保険、地震補償保険共に、来年4月1日から新体制で運営していく予定です。
- ・ご清聴、ありがとうございました。